

# FormPat 6

データベース参照定義ファイルガイド

2018/05/14

**Digital Assist**

Copyright(C) 2018 Digital Assist Corporation. All rights reserved.

## 目次

目次 .....	2
はじめに .....	3
概要 .....	4
データベース参照定義ファイルのヘッダ記述 .....	4
データベース参照定義ファイルのデータ参照記述 .....	4
留意点 .....	6

## はじめに

本書では、FormPat 6（以下、FormPat）のデータベース参照機能で利用できるデータベース参照定義ファイルの設定方法を説明します。

データベース参照定義ファイルを利用することで、フォーム入力中に他のシステムのデータベースや FormPat のデータベースを参照することが可能になります。

例えば、コード欄の値でデータベースを参照し、データベースに格納されている情報を名称欄に表示するような利用が可能です。

本書は、FormPat Ver.6.0.0 以降を対象としています。

本書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標です。

## 概要

データベース参照定義ファイルは、フォーム入力中でデータベースを参照し、その結果をフォーム内の項目に貼り付ける処理を記述したファイルです。

データベース参照定義ファイルは、FormPat Designer（以下、デザイナー）で作成したフォーム定義ファイルごとに作成可能です。

また、データベース参照定義ファイルのファイル名は、デザイナーで作成したフォーム定義ファイルのファイル名（拡張子を除く）と同じ名前の CSV 形式ファイル(拡張子.csv)です。

## データベース参照定義ファイルのヘッダ記述

フォーム名, 予備 1, 予備 2

フォーム名 は データベース参照定義ファイルのファイル名をコメントとして記述します。システムからは参照していません。

予備 1 は現在未使用です。

予備 2 は現在未使用です。

「ヘッダの記述例」

りん議書,,

## データベース参照定義ファイルのデータ参照記述

DSN 名, 検索条件, 検索結果, 行位置, SQL 文

DSN 名 はデザイナーで DSN 定義した項目名称を記述します。

デザイナーでの DSN 定義方法は以下の通りです。

1. 「テキスト 文字」項目を追加します。任意の位置に配置してください。
2. プロパティの[項目名称]に任意の **DSN 名** を定義します。
3. プロパティの[固定リテラル]に Provider=で始まるデータベース接続文字列を定義します。FormPat のデータベースを参照するときは[固定リテラル]に DSN または dsn と定義します。  
また、[固定リテラル]には外部のデータベース接続文字列を参照する定義として、DSNxxx または dsnxxx (xxx は任意の文字列)を指定することもできます。DSNxxx に対応する実際の DSN 接続文字列はオプション環境ファイル(option.config)に定義します。詳しくは「環境ファイル・リファレンスガイド」の「オプション環境ファイル(option.config)」を参照してください。
4. プロパティの[可視表示]の[入力]、[印刷]ともチェックを外します。
5. プロパティの[検索対象]のチェックを外します。
6. その他の項目は既定値とします。

**検索条件** は SQL 文の WHERE 句で使用するフォーム項目名称とデータベース項目名称の関係を「=」を使って記述します。

また、フォーム項目名称の前に項目属性に従って項目属性記号を付加する必要があります。項目属性記号には、テキストは @ 、ラベルは # 、コンボボックスは \$ 、チェックボタンは \* 、ラジオボタンは ! 、貼付画像は & を設定します。@ は省略可能です。

(FormPat のデータベースを参照では貼付画像は使用できません)

複数のフォーム項目名称とデータベース項目名称の関係を設定するときは : で連結します。

**検索結果** はデータベース参照結果をフォームへ反映するため、フォーム項目名称とデータベース項目名称の関係を「=」を使って記述します。

また、フォーム項目名称の前に項目属性に従って項目属性記号を付加する必要があります。項目属性記号には、テキストは @ 、コンボボックスは \$ 、チェックボタンは \* 、ラジオボタンは ! 、貼付画像は & を設定します。@ は省略可能です。

複数のフォーム項目名称とデータベース項目名称の関係を設定するときは : で連結します。

ただし、複数の関係を連結する場合は SQL 文の SELECT 句の記述順と同じ並びにする必要があります。

**行位置** は検索結果として複数行取得した場合、何行目を取得するか記述します。

通常は 0 を記述します。

**SQL 文** はデータベース検索の SQL 文を記述します。

ただし、FormPat のデータベースを参照するときは、SELECT 句を FP\_SELECT に、テーブル名を FormPat の「フォーム設定」画面の「フォーム ID」にそれぞれ置き換えます。

また、WHERE 句で条件として指定した項目は、FP\_SELECT 句の項目に必ず記述してください。

WHERE 句では **抽出条件** で記述したフォーム項目名称も指定可能です。その場合、データ形式が文字属性ならフォーム項目名称を '[' (ただしデータベースの項目が Unicode なら N['])、日付属性ならフォーム項目名称を '[' で、数値属性ならフォーム項目名称を '[' で囲みます。[] 内には項目属性記号は必要ありません。

また、WHERE 句で記述するカラム名の前後には半角空白が必要です。

FormPat のデータベースの参照では WHERE 句は必須です。

SQL 文末尾の ; は省略してください。

「他のシステムのデータ参照記述例」

```
DNS1,@会社コード=CompanyCode:$部署名=Section,@社員番号=EmployeeCode:@社員名=EmployeeName:$部署=Section,0, SELECT EmployeeCode, EmployeeName, Section FROM TBL_Employee WHERE CompanyCode = [会社コード] AND Section = [部署名]
```

※実際は一行で記述してください。

「FormPat のデータベースのデータ参照記述例」

```
DNS1,@会社コード=会社コード:@社員番号=社員番号,@社員名=社員名:$部署=部署,0,  
FP_SELECT 会社コード, 社員番号, 社員名, 部署 FROM FormID WHERE 会社コード = [会社  
コード]AND 社員番号 = [社員番号]
```

※実際は一行で記述してください。

## データベース参照定義ファイルの作成手順

1. [メモ帳]等のテキストエディタでデータベース参照定義ファイルを作成します。  
保存時のファイル名は、デザイナーで作成したフォーム定義ファイル(拡張子.xml)の拡張子を除いたファイル名と同じにし、拡張子を .csv とします。
2. データベース参照定義ファイルを FormPat のフォーム定義ファイルと同じ手順でサーバーにアップロードします。
3. FormPat を実行し、フォーム入力画面で[計算]ボタンまたは[F9]キーでデータベースが参照されることを確認してください。

## 留意点

1. データベース参照定義ファイルの記述内に半角空白を使用することは禁止されています。  
ただし、SQL 文の構文内では使用可能です。
2. データベース参照定義ファイルの記述内に空行は使用可能です。